

地域の伝統行事に学ぶ

11月～2月(20時間)

1 ねらい

多くの町にはそれぞれお祭りがある。子供たちの多くは、毎年地域のお祭りがあることを知っていたり、参加したりしている。しかし、お祭りがあることは知っていても行ったことはない、あるいは地区にお祭りがなく、お祭りの様子を知らない子供もいる。

そこで、広幡学区のお祭りについて学ぶことで、地域の伝統行事に親近感をもたせ、地域への愛着の気持ちを養いたいと考えた。伝統行事を引き継ぐことの大切さに気付かせる学習にしたい。

2 実践の概要

広幡小学校の学区には多くのお祭りがあるが、中でも神明宮大祭は能見神明宮に300年以上も続く岡崎三大祭りの一つである。広幡学区の人たちにとっても誇りあるお祭りであることを認識させることで、岡崎の心の醸成を図ろうと考えた。

(1) 神明宮大祭(神明宮)のことを知ろう

まず、子供たちに神明宮大祭について知っていることを挙げさせ、お祭りについての知識が少ないことを認識させ、探究心をもたせるようにした。

① 神明宮大祭について詳しい地域の方にお話を聞こう

この地域に生まれたときから住み、神明宮大祭を長年経験している方をゲストティーチャーとして学校に招き、神明宮大祭についての講話をしていただいた。お祭りの概要や歴史など、詳しい内容を聞く中で、子供たちは進んでメモを取ったり、質問をしたりした。

神明宮大祭の伝統的な特徴である、山車(やまぐるま)、はっぴ、お囃子、踊りの四つは、参加する町ごとにそれぞれ特色があり、子供たちにとってはとても興味深いものであった。そして、これら四つを追究テーマとして定め、自分が一番興味をもったグループに分かれて、学習を行うことにした。

② 山車の見学に行こう

神明宮大祭についてのお話をいただいた上で、写真や映像でしか見ることのできなかつた山車を、実際に神明宮で見学した。山車は、一年に一度、お祭りがある期間以外は蔵の中に保管してあるが、各町の代表の方々の協力を得て、八台の山車を見学することができた。また、見学当日には、各町の代表の方々を神明宮に招いて、各町の山車の特徴や歴史に



お祭りに詳しい地域の方のお話



各町の特徴ある山車の説明

ついて丁寧に説明をしてもらった。子供たちは、実際に使用されている山車の大きさや華やかさに圧倒されているようだった。説明を真剣に聞き、見学メモを丁寧にまとめる姿が見られた。



山車に乗っての見学

(2) 調べて、まとめよう。

山車、はっぴ、お囃子、踊りの四つのグループに分かれ、学習発表会に向けて調べ学習を行った。情報収集の仕方や発表の方法などを各グループで決めた。

「踊り」のグループは、実際にお祭りで踊られている巫女の舞を発表することにした。地域に住み、実際に踊りの指導をしている方をゲストティーチャーとして学校に招き、指導してもらった。難しい振付が多いが、一生懸命覚えようとしている子供の姿が見られた。



踊りの練習の様子

「お囃子」のグループは、お祭りで使われるお囃子を実際に演奏して発表することにした。お祭りに参加する町の一つ、松本町のお囃子演奏者の方をゲストティーチャーとして招き、指導してもらった。お囃子の楽譜やリズムは特徴的で、子供たちにとって初めての経験だったが、楽しみながら練習に取り組んでいる姿が見られた。



「山車」「はっぴ」のグループは、これまでの地域の方々のお話や見学に加え、パンフレットや書物、インターネットなどで調べ学習を行った。そして、模造紙やリーフレットなどに絵や写真を用いてまとめた。また、各町の山車やはっぴにはそれぞれの特徴や意味があることを学んだ上で、自分たちのオリジナルの山車の模型やはっぴをデザインして作った。



グループでの話し合いの様子

(3) 発表会をしよう

2月下旬にはグループごとにまとめたことを報告するために、発表会を行う予定である。発表会には、ゲストティーチャーとして指導に携わった地域の方々を招く。教えてもらったことへの感謝の気持ちを伝えるとともに、子供たちが学んだことを発表することで、自分たちで地域の伝統を守っていこうという考えをもたせたい。

3 実践を振り返って

単元を通して、子供たちは多くの地域の方々と関わることができた。神明宮大祭のすばらしさを実感する学習ができたように思える。また、今回の学習を通して、岡崎の心の醸成ができたのではないか。未来に向けて伝統を受け継ぐ一人として、今後さらに地域を愛する心を深めさせたい。